

# 北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」

会報 かいはろ ノーフエンス

ひと一人間として、人類の歴史に禍根を残さないために、山の奥に封じ込められ、いのちの尊厳を冒瀆されている人々を放さない。



(NO FENCE IN NORTH KOREA)

**NO FENCE**

E-mail: nf-staff@netlive.ne.jp

# NO FENCE

vol. **21**

2013年 3月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203 TEL&FAX 03-3262-7473 <http://nofence.netlive.ne.jp> 【郵便振替口座】 NO FENCE / 00180-1-707147

## NO FENCE 総会は4月6日（土）午後

### 人権ライブラリー（浜松町）で

2013年度のNO FENCEの総会は表記の通り行います。今内容を準備しておりますが、日にちだけご承知おき下さい。以下に記しますように総会までにいい知らせが期待されます。一人でも多くの会員のご参加を期待いたします。詳細は次号で。

### 国連北朝鮮人権調査委員会（COI）設立間近

今年も2月25日から第22期国連人権理事会（会員国47カ国）がジュネーブで開かれています（3月22日まで）。今期の最大の注目点と期待は、北朝鮮人権調査委員会の設立が決議されるのではないかにあります。既に2004年に北朝鮮人権特別報告者が任命され、調査が行われてきました。現在二人目のマルズキ・ダルスマンさんが勤めています。しかし北朝鮮は特別報告者の入国を拒否しています。もう一段上の調査委員会を設置しなければならないという動きが3・4年前から出ていましたが（EUは一昨年議会決議）、日本政府は総会決議賛成国の数を減らしたくないという消極的な理由から応じてきていませんでした。それが一昨年来の国際的な関心の高まり、ICNK結成とそれによる働きかけ（国会議員や外務省への働きかけ。特にヒューマンライツ・ウォッチの主導的動き）、ピレイ国連人権高等弁務官の発言などで、漸く今春の人権理事会に提出するEUとの共同決議案の中にこの調査委員会の設立を求めることに応ずるに至ったようです。人権理事会で決議されれば、委員は3人体制（特別報告者が多分委員長）で強化されます。発足は5月～6月頃でしょう。会期末の3月20日過ぎに結果が出ます。

一昨日韓国のNGO北韓人権市民連合の英文ニュースレターがFacebookで届きました。トップ記事で昨年12月市民連合のヨアンナ・ホサニヤックさん（ポーランド人の国際担当）が収容所体験者の金ヘスクさんと申東赫氏と共に、北朝鮮人権NGOとしては、始めてピレイ国連人権高等弁務官と会見し、要請したことを知りました。その成果は1月14日のピレイさんの記者会見での発言に現れました。また同じ2月27日一昨年のICNK設立に貢献した河泰慶（ハテギョン）さんが、今度は韓国の国会議員として与党セヌリ党の議員を中心に93名の共同提案として、前記調査委員会の設立を求める韓国国会決議案を韓国国会に提出したという記者会見のニュースが、送られてきました。韓国国会では野党民主党の力が強く、韓国版北朝鮮人権法が依然として成立していませんので、国会決議がなされるか予断を許しません。北朝鮮が第3回目の核実験をした直後だけに、民主党も反対しにくい状況にあります。日本での国会の状況と比べると、流石に北半部の同胞の問題だけに関心が高いですね。

もう二つニュースがあります。姜 Chol Pan 氏からのニュースです。去る2月19日ジュネーブで今春の国連人権理事会でのロビー活動として開かれた「人権と民主主義のためのジュネーブサミット」で他の数カ国の人権被害者・活動家と共に彼と申東赫氏が収容所体験を訴えたというニュースです。第2セッションで15分位ずつと思われます。このニュースも象徴的です。

最後に、2月1日マルズキ・ダルスマンさんが人権理事会あてに報告書を提出しました。このニュースは、我が会の世話人の李恩元さんが知らせてくれました。この報告書については李さんが改めて会報や総会で紹介してくれると思いますが、本号でも項を改め簡単に紹介します。調査委員会設立を念頭に入れた今までの国連文書（北朝鮮人権）の整理から成る報告書です。（文責、小川晴久）

## ダルスマンさん2月1日報告書について

国連文書記号A/HRC/22/57です。国連ホームページ（英文選択）、人権サイト、document サイトに進み、上記の文書記号を入れるとたどり着けます。全文精読できていませんが、概略を申しますと、今まで出された北朝鮮の人権に関する国連調査文書をテーマ別に整理し、何がどこまで把握され、どのような勧告がなされてきたかを、整理したものです。強制収容所問題は9つのテーマのうち4番目に紹介されています。9つのテーマとは、1) 食べる権利の破壊、2) 拷問と非人間的な取り扱い、3) 恣意的な拘留、4) 強制収容所、5) 差別、6) 表現の自由の侵害、7) 生きる権利の破壊、8) 移動の自由の侵害、9) 外国人の拉致を含む強制失踪、です。

調査委員会設立を見越し、自らが委員長になることを自覚した上での整理とも思われ、実践的なものですが、感じた二つのことを急ぎ指摘したいと思います。

一つは、国連文書だけの整理であることです。報告書の末尾にリストがありますが、国連文書だけです。調査委員会では数あるNGOの調査文書も収集され、参照されていくと思います。その主要な者はダルスマンさんも承知の上で、今回の整理が為されていると思いますが、NGOの重要な文書を集め、それを英文に翻訳し、承知していく必要が調査委員会には課せられます。それを3人の委員やスタッフに任せても容易ではありませんから、NGOの方から、そういう資料を選択し、翻訳し、提出していく必要があるでしょう。とくに強制収容所体験者の手記は貴重です。この機会にその英文、中文による翻訳を精力的に進める必要があります。NHKは積極的に北朝鮮の収容所問題の特集を組み、翻訳のボランティアを募る位の貢献をすべきでしょう。勿論NO FENCEがしっかりしていなければなりません。

二つ目は9つのテーマのうち強制収容所が4番目に位置していることです。食糧問題から始まることは理解できますが、印象としては位置付けが少し弱いと思います。北朝鮮の人道犯罪のトップは強制収容所とそこでの犯罪です。NO FENCE運動の弱さが反映されていますが、2006年以來の国際社会（国連ほか）の関心の高まりは強制収容所が核になっていますので、自信は持っているのですが、ダルスマンさんにNO FENCE運動の趣旨を伝える必要があります。英文にする必要がありますね。（小川 晴久）

# 主体（チュチュエ）思想に反対する運動が

## 北の学生たちにあったとのこと

### — 2. 9 李英秀氏証言集会から —

NO FENCE 主催の表記証言集会の詳しい報告は、当日通訳をされた宋事務局長からあると思いますが、数多くの興味深い証言の中から、1980年代初頭から金日成総合大学の学生たちの中に主体思想の誤りに気づいた学生たちの運動があり（主体思想に反対する「松明（たいまつ）思想組織」という組織）、この組織に加担した金日成総合大学の学生は皆強制収容所（終身区域＝完全統制区域）に送られたと言う証言を、紹介したいと思います。この組織に当時国家副主席李鐘玉の息子が参加しており、彼だけは革命化区域（3年後出所）に送られ、ヨドック収容所体験者の李英秀氏は李鐘玉の末の息子から以下のことを聞いたというのです。

「松明思想組織には闘争綱領があった。主体思想は、マルクス・レーニン主義を金日成が修正して作ったものだ。民の反抗心をなくして搾取しようとして作ったものだが、主体思想では実際の社会を作れないし、うまくいかない、だからそれに反対する松明思想組織を作った。闘争綱領は、金日成主体思想の虚偽性を知識人インテリたちに宣伝し、その多数の人たちが正確に把握できるようにすることだ。」と。

短い言葉ですが、「主体思想では実際の社会は作れないし、うまくいかない」という指摘はその後の30年を見るとき、とても含蓄の深いものがあります。主体思想の最大の欠点は、人民が主体性を発揮する時正しい指導を受けなければならない、金日成の指導がそれだという所にあります。正しい指導を受けなければ為らないと言う考えは各国の共産党の組織原則にあります。マルクス主義、乃至マルクス・レーニン主義の指導です。朝鮮労働党ではそれが主体思想にかわり、金日成の指導に変わります。そして金日成が人類で一番優秀な人物と絶対化・神格化されていきますから、真の創造性は生まれてこなくなります。北朝鮮があらゆる面で貧困化するのには、この考え方によります。金日成総合大学の学生たちが80年代初めに（金正日が後継者に決まった時）それに気づいたことは当然とも言え、流石だとも思います。しかし加担者全員が強制収容所送りになったというこの証言は広く伝えられていくべきでしょう。主体思想の誤りに気づいた大学生たちの知性と良心が存在したこと、それが強制収容所というもので無残にも葬り去られたという残酷で痛ましい史実は、北朝鮮現代史の中で記録され、いつも想起されねばならない貴重なものです（小川 晴久）。

### 会費納入のお願い

4月から2013年度を迎えますが、まだ2012年度の会費を納めていただけていない方がかなりおられます。正会員年会費5千円、賛助会員（学生含む）2千円です。経済的事情から年5千円納めるのはきついという方には、継続していただくことが大事ですので、賛助会員に切り替えていただけて結構です。同封の振替要旨で2012年度未納の型は3月中にお納め下さい（会計担当 小川 晴久）。

急ぎ作りの会報に  
1頁余白が出来た  
ので故ウヰツラフ  
ハブツルさんの2004年  
ワシントンポスト寄稿の  
原文と末尾の部分の  
拙訳(独島北朝鮮  
いまだ存在する強制労働  
者約100万人)を紹介  
します。(小川晴久)

右の水の塔の影の記

EU諸国、アメリカ、日本、韓国など世界の民主主義国家が普通のポジション(姿勢)を取るべきときが来た。彼らは全体主義的独裁者に譲歩はしないことを明確にしなければならぬ。彼らは人権の尊重がビョナンヤンと対話をするさいの絶対不可欠の二部であることを表明しなければならない。断乎たる態度、忍耐、そして力を背景とした話し合い以外に、金正日や彼と似た者たちが理解できるものはないのだ。

〔ワシントン・ポスト〕紙掲載、筆者訳

訳文は

拙稿に添えられた

無視

Vaclav Havel

# Time to Act on N. Korea

It has been 60 years since the world first heard of Rudolf Vrba and Alfred Wetzler's successful escape from Auschwitz, an escape that brought to light accounts of Hitler's extermination camps. Their testimony forced representatives of the democratic world to face truths that many did not want to believe, even after the war. Thanks to Vrba, Wetzler and countless other witnesses, the horrors and extent of the Nazis' Final Solution are universally known.

Like the Holocaust, the crimes and brutal reality of Soviet communism were also outlined and understood, thanks to the writings of Arthur Koestler, Alexander Solzhenitsyn and others. Fortunately, people who use eyewitness testimony in attempts to expose the greatest crimes against humanity can be found in each era and all over the world. Rithy Panh described the terror of the Khmer Rouge, Kanan Makiya detailed the brutal prisons of Saddam Hussein and Harry Wu has tried to show the perversion of the Laogai system of Chinese forced-labor camps.

Today the testimony of thousands of North Korean refugees who have survived the miserable journey through Communist China to free South Korea tells of the criminal nature of the North Korean dictatorship. Accounts of repression are supported and verified by modern satellite images, and they clearly illustrate that North Korea has a functioning system of concentration camps. The *kwan-li-so*, or "political penal labor colony," holds as many as 200,000 prisoners who are barely surviving day to day, or are dying in the same conditions as the millions of prisoners in the Soviet gulag system did.

The northern part of the Korean Peninsula is governed by the world's worst totalitarian dictator, a man responsible for the loss of millions of lives. Kim Jong Il inherited the Communist regime following the death of his father, Kim Il Sung, and has continued to strengthen the cult of personality. He sustains one of the largest armies in the world and is producing weapons of mass destruction even as the centrally planned economy and the state ideology—known as *juche*, a blend of nationalism and self-reliance—have led the country into famine. The victims of the North Korean regime number in the millions.

Despite the ever-present army and police, tens of thousands of desperate North Koreans have escaped to China. In defiance of international treaties, the Chinese government refuses to recognize these people as refugees, and Chinese officials have blocked the Office of the United Nations High Commissioner for Refugees from contacting any

North Korean in China. The Chinese government hunts the refugees in the woods along the border and sends them back to North Korea, where the journey ends in the *kwan-li-so*. All of this is happening right now, and the world is standing idly by.

Some refugees are fortunate enough to make it to South Korea. But their presence there flies in the face of that country's official "sunshine policy," which, however well-intentioned, is based on constant concessions and appeasement. The policy costs South Korea hundreds of millions of dollars, but it is not helping in the effort to save innocent lives. In the end, the policy only keeps the leader of Pyongyang in power.



BY DEAN ROHMER

Kim Jong Il is able to blackmail the world with the help of his huge army, nuclear weapons, long-range missiles, and the export of weaponry and military technology to like-minded dictators around the world. He wants to be respected and feared abroad and to be recognized as one of the world's most powerful leaders. He is willing to let his own people die of hunger, and he uses famine to liquidate those who show any sign of wavering loyalty to his rule. Through blackmail, he receives food and oil, which he distributes among those loyal to him (first in line being the army).

Shockingly, the U.N. Commission on Human Rights has criticized the North Korean regime for its gross violations of human rights only twice since the commission was founded. Less shocking, but also disturbing, is the fact that the North Korean government has yet to implement any of the commission's recommendations.

Now is the time for the democratic countries of the world—the European Union, the United States, Japan, South Korea—to take a common position. They must make it clear that they will not offer concessions to a totalitarian dictator. They must state that respect for basic human rights is an integral part of any future discussions with Pyongyang. Decisiveness, perseverance and negotiations from a position of strength are the only things that Kim Jong Il and those like him understand.

The writer was president of the Czech Republic.

譲歩  
完全な  
忍耐

ゆき

一掃、清浄

\*

譲歩  
完全な  
忍耐